

# 旭川のポロMEMとポンMEM：②

前回は、地図①の明治三十一年製版「北海道仮製五万分一図」(六〇%縮小)の「ポロMEM」と「ポンMEM」を通して、旭川の「MEM(mem)」の特色について述べた。

すなわち、「MEM(mem)」は、一般的には「泉湧き水」の意味であるが、旭川のアイヌ語地名ではそれに加えて、「古い小川、古川の跡の小川」の意味があった。

地図①の「ポロMEM」と「ポンMEM」は、古くは石狩川の分流であったものが、上流部が、石狩川と離れたために、その伏流水が、「古川の跡の小川」になったと言われている。大正元年の『旭川市街全図』や、大正三年の『旭川区概図』では、「ポンMEM」(和名「氷川」)が、上流で石狩川と繋がっている。いずれにしても、元来は、「ポロMEM」と「ポンMEM」は、石狩川の分流だった

ようである。それ故、旭川のアイヌ語地名の意味として、「MEM(mem)」は「古川の跡の小川」が採用されたのである。

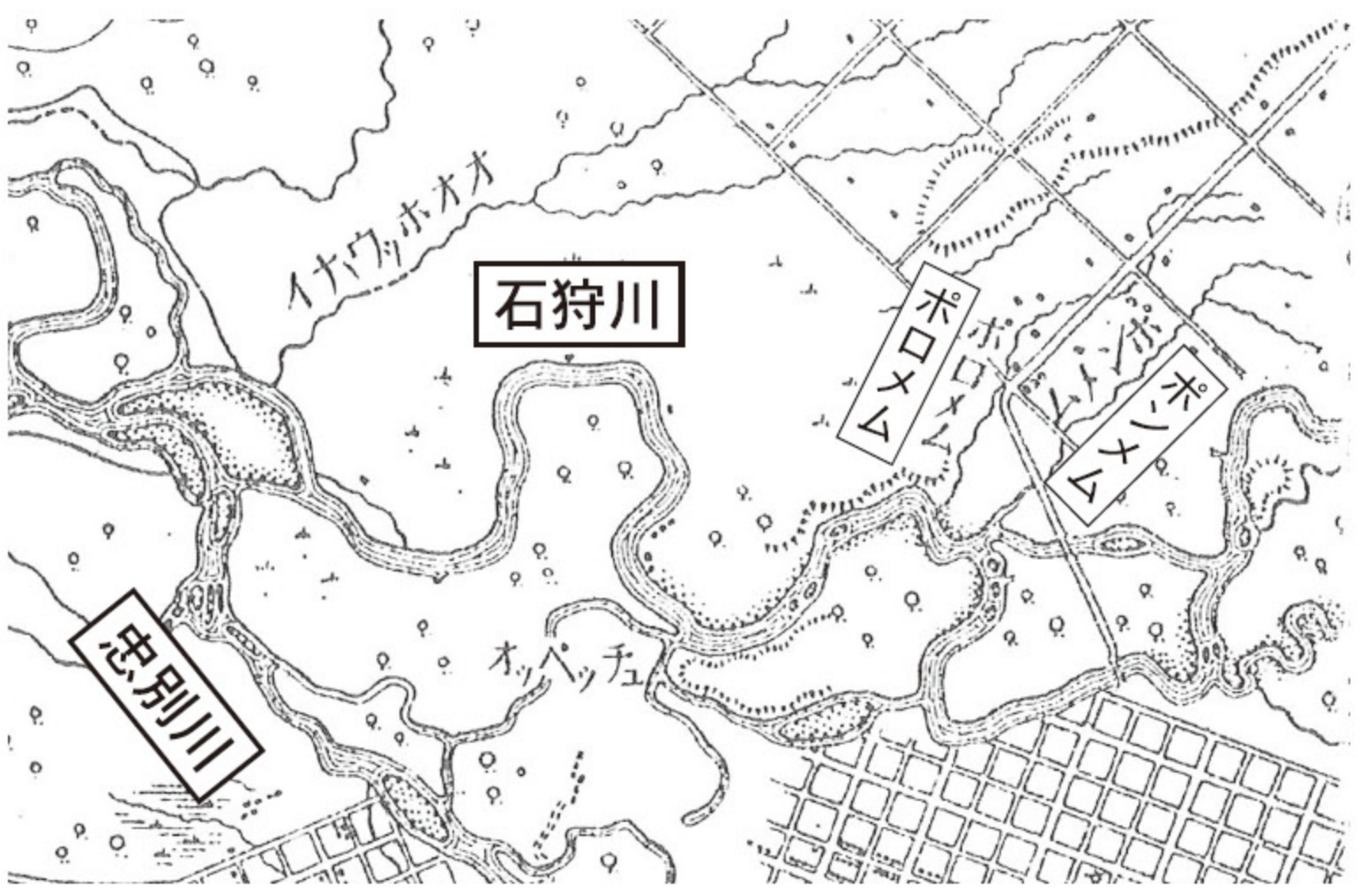
さて、旭川市教育委員会では、アイヌ文化の理解の促進を図るため、アイヌ語地名と日本語地名を併記した「アイヌ語地名表示板」を平成十五年より設置し、旭川市民にアイヌ文化への関心や理解を深める契機としてもらいたいと、現在、三十七地点に、「アイヌ語地名表示板」を設置している。

その三十七地点目が「下写真の「ポンMEM (pon-mem)」氷川」である。花咲町五

## 断章 旭川のアイヌ語地名研究

150

高橋 基



地図① 明治31年製版「北海道仮製5万分1図」



《アイヌ語地名表示板》

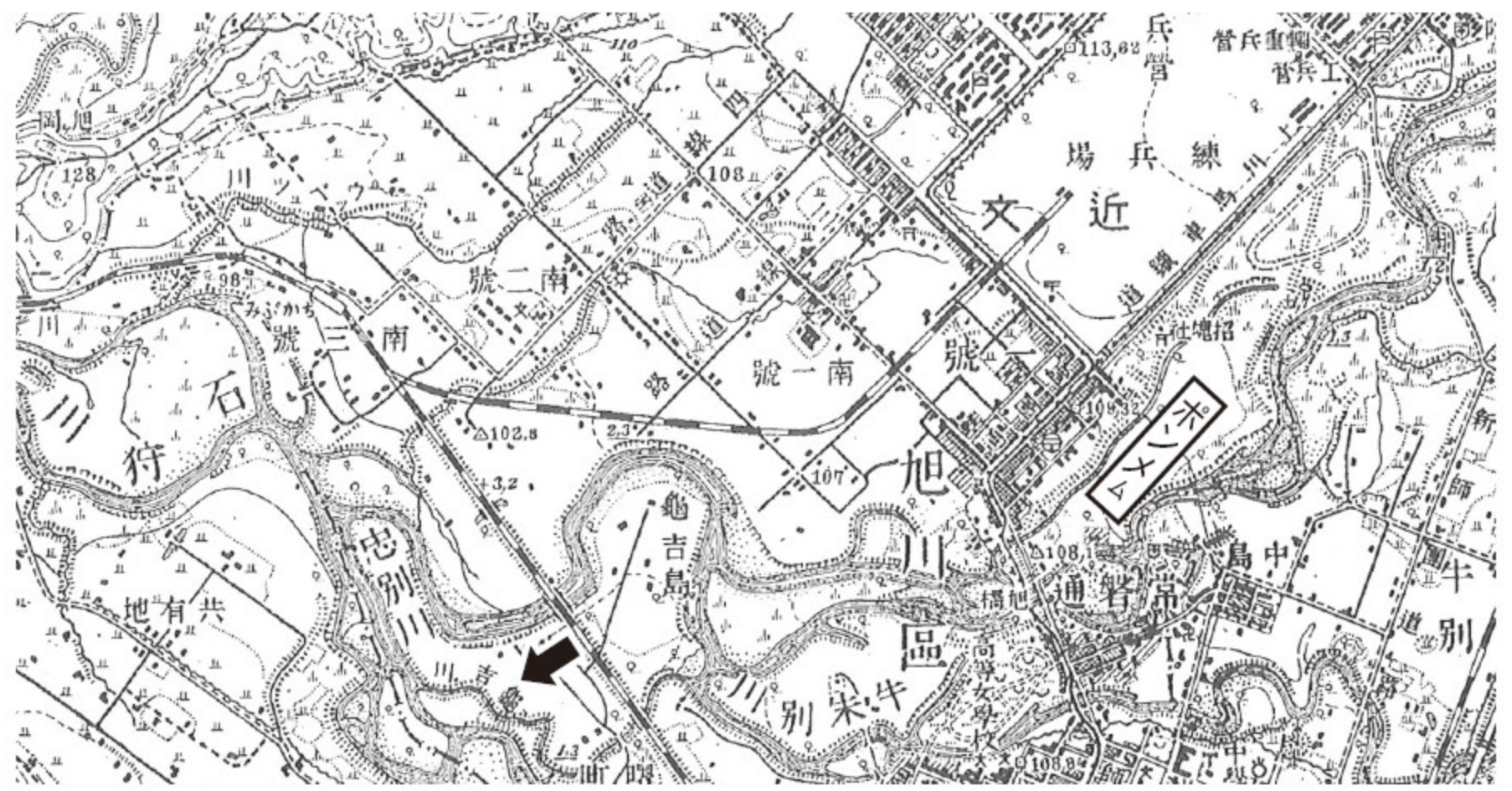
丁目の旭川市総合体育館の駐車場に設置されている。解説文の文字が少し小さいので、次に記載する。

明治三十一(一八九八)年の地図に、大きい方のポロMEM (poro-mem)と対になって書かれていた石狩川の分流の跡の小川です。現在は旭橋下流の本町樋門で石狩川に合流しています。松浦武四郎の記録では、同じ地名が石狩川の左岸側にもありました。また、一般にMEM(mem)は、清水が湧いている泉池を言いますが、旭川では古川の跡の小川もMEM(mem)と言いました。

松浦武四郎の記録では、同じ地名が石狩川の左岸側にもありました。また、一般にMEM(mem)は、清水が湧いている泉池を言いますが、旭川では古川の跡の小川もMEM(mem)と言いました。

旭川市教育委員会社会教育部博物館が担当部署で、旭川市アイヌ語地名表記推進

地図② 大正5年測図  
| 5万分1地形図(旭川)



懇談会で協議して、候補地名や文面を協議して決定しています。懇談会の座長は小野有五さんで、他に現在委員が四人、筆も委員の一人です。

年測図の五万分一地形図(六〇%縮小)で、「ポンMEM」氷川」の位置が判明します。現在は暗渠になっていて、大町二条二丁目、わずかに昔の面影を残すのみです。「氷川を守る会」を結成して、暗渠化反対運動があったそうです。

次回から、地図②の↓印の「ポロMEM」氷川」を検討します。

アイヌ語地名研究会幹事 ※毎月第1週号に掲載します